様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ７ 日現在

機関番号：３４５０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2016
課題番号：２５３８１２５６

研究課題名（和文）総合的学習における評価規準の作成と評価方法に関する教員研修プログラムの開発

研究課題名（英文）The evaluation training system by "evaluation index" in the "Interdisciplinary Study"

研究代表者
佐藤　真（Sato, shin）

関西学院大学・教育学部・教授

研究者番号：２０３２４９４９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：第一に一般公立学校を対象とした「総合的な学習の時間」で「育てようとする資質や能力 及び態度」について学習状況評価するための「評価指標」の設定方法について明らかにした点 である。第二に「総合的な学習の時間」における評価研修の方法として開発した、グループ・モデレ ーションによる評価研修システムを一般公立学校を対象として実施し、その効果を検証すると ともに、グループ・モデレーション法のさらなる改善を行った点である。

研究成果の概要（英文）： It is the point clarified about the setting method of the "evaluation index" for carrying out learning situation evaluation in the first place about "the nature, the capability, and the attitude which it is going to raise" in the "Interdisciplinary Study" for a general public school. While carrying out the evaluation training system by group moderation developed as the method of the evaluation training in "Interdisciplinary Study" for a general public school to the second and verifying the effect to it, it is the point of having made the further improvement of the group moderation method.

研究分野：教育学

キーワード：総合的学習　評価規準　評価方法　教員研修

１．研究開始当初の背景

本研究の目的は、「総合的な学習の時間」(以後、「総合的学習」という。)において、児童の学習評価を適切に実施できる教師の力量形成のための学校内での校内研修プログラムを開発することである。我が国の総合的学習は、教科での習得・活用という学習類型とは別の探究という学習類型として位置づけられた。また、育てようとする資質や能力及び態度を明確にして育むこととされた。これにより、学習評価はこの資質・能力及び態度によって児童を評価するものとなったのである。しかし、そのための評価はこれまでのペーパーテストでは行ってはいけないために、その評価方法として新たにポートフォリオ評価やパフォ-マンス評価が付加された。

しかし、国立教育政策研究所からは評価の観点と評価規準を示して児童の学習評価と評定を示しているが、総合的学習については評価規準と評価基準の双方は示されていないのである。このような評価規準と評価基準による評価指標というようなルーブリック(rubric)は、Burke が「効果的実績にとっての鍵は評価基準 (standard)と評価規準(criteria)を設定することである。評価規準が欠如すれば査定はただそれだけ、すなわち、単なる課題や教授活動そのものにすぎない。おそらく最も重要なことは得点化のための評価規準は判断される内容を明らかにし、そして多くの場合、同時に受容可能な作業実績のための評価基準を明らかにするということである。このための評価規準はあなたの目標 (goal)と達成の基準(achievement standard)を伝えるのである。ルーブリックは判断されるべき評価規準を内に含んだ得点化フォー ムを指している。」としている。また、Wiggins は「子どもの査定(student assessment)においては、ルーブリックは、子どもの学習成果評価するための一セットの採点指針(a set of scoring guideline for evaluating students’ work)である。」としている。すなわち、Burke と Wiggins の示すルーブリックとは、児童のある学習活動を査定するための評価 の質的な拠りどころである評価規準 (criterion)と、その進歩の状況を判定するための量的な尺度の拠どころである評価基準(standard)を含む評価指標を意味しているのである。他方、ルーブリックのテクニカル要件については、第１に評価得点間の質の 変化は均等でなければならない(連続性、均一性)。第２に記述説明の各文に用いられている基準となる表現は、他の記述式説明欄の説明と対比したものでなければならない(対比性、類似性)。第３にルーブリックでは、一貫して同一の評価基準に照準を当てて い なければならない(一貫性)。第 4 に複数のルーブリックがある場合には各評価基準は 他の基準と照らし合わせて恣意的でなウェイトづけがなされなければならない(ウェイトづけの適切性)。第５にルーブリックでは評価の対象となったものが中心となっている学習行動であるために選ばれたものでなければならない(正当性、妥当性)。第 6 にルーブリックはいつ誰が行っても一貫した評価を可能にしなければならない(信頼性)という６点を要件として示すものもある。これらのテクニカル要件は、教育評価の客観性や妥当性、信頼性を意味するものであり、このような意味からもルーブリックは、児童の学習を評価するための道具ではなく、教師の指導改善や児童の学習促進、さらには学習成果の証明機能として効果を発揮するものである。ルーブリックの妥 当性について、Wiggins は「1 パフォーマンス課 題が適切で妥当なものになっているか、2 パ フォーマンスを評価する評価基準とその記 述語は妥当か」という 2 点を指摘している。

一方、教育評価の信頼性とは評価用具がいつ誰によっても何度行っても評価結果が変わることがないという安定性や一貫性のことであり、評価者の主観によって評価にばらつきがでないようにすることである。これに ついて、Wiggins は「『より良い』『より劣る』といった比較する言語(comparative language)を用いるのではなく、その実質的な特徴を見抜き記述することがある」としている。すなわち、ルーブリックは評価の内容や本質に関わった特徴を記述しそれらの看取りについて教師の「鑑識眼」を高めることが、ルーブリックの信頼性を獲得することになるのである。したがって、これらの指摘はグループ・モデレーションの必要性を示唆するものである。以上のことから評価指標の設定はポートフォリオ評価はもちろん、新たな学習評価についてのパフォーマンス評価は特に重要であり、それの評価研修の有効性と実践上の問題点をとともに教師の「鑑識眼」を高めるためにも学校内の研修としてグループ・モデレーションのプログラムは必要である。

２．研究の目的

本研究の目的は、総合的学習において児童の資質・能力を適切に評価できる教師の力量を形成するための校内研修プログラムを開発することである。総合的学習は、学習指導要領では小学校では第 5 章、中学校では第 4 章として章立てられ、探究を担う学習として位置づけられている。しかし、これを評価で き る教師は、養成段階の大学等での 学 部教育では必修科目ではないために、ほとんど学んでいない現状である。さらに、文部科学省の『総合的な学習の時間・解説』書では評価方法としてポートフォリオ評価やパフォ-マンス評価が示されたために、このような新しい評価方法に戸惑ったり混乱したりする状況が見受けられる。したがって、これら新たな評価の方法について教師の力量形成を

図るための研修プログラムを開発することは急務である。国内外の文献調査及び我が国での総合的学習の先進校の評価実践をもとに研究者と実践者との共同による新たな学習評価の評価研修会を実施し、そのデータを分析・検証する。その上で総合的学習の先進校以外の一般公立学校でも可能な学習評価に関する評価研修システムを開発する。

３．研究の方法

国内外の理論研究としての文献収集とその分析及び先行校の評価実践についての現地調査を行う。次に、それにより評価指標の設定理論を明確にし、現実の学校教育現場における総合的学習の学習評価の実態を明らかにする。その上で、ポートフォリオ評価とパフォーマンス評価を中心とした新たな評価方法と教師の鑑識眼を高める研修の実態について総合的学習先進校を中心に検討する。最後に、総合的学習での児童の学習状況を評価するための評価指標の設定方法と評価方法を身につける評価研修システムを開発する。

４．研究成果

まず、一般公立学校を対象とした総合的学習で育てようとする資質や能力及び態度について学習状況を評価するための評価指標の設定方法について明らかにした。それは、先進校での特質と一般公立学校の実態とを検討し、一般公立学校でも可能で教師の負担が少なく、さらに児童の学習成果に効果的な設定方法を開発した。

次に、総合的学習における評価の研修方法としてモデレーションによる評価研修システムを一般公立学校を対象として実施し、その効果を検証するとともにモデレーション法のさらなる改善を行った。とりわけ総合的学習において育てようとする資質や能力及び態度の学習状況を評価する評価指標の機能が、児童の能力形成と教師の指導改善にどのように働いているのかというメカニズムについて分析し、一般公立学校において可能で簡便な評価研修システムの開発にいたった。

以上、本研究は、現在の総合的学習において児童の資質・能力の形成を図るために、指導計画や実施等を改善するための教師の評価力量を高めるための一助となるものと確信する。

5.主な発表論文等（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線）

〔雑誌論文〕(計16件)

(1)佐藤真「2.資質・能力を育成するために求められる力」「13.総合的な学習の時間」無藤隆編『中教審答申解説2017−「社会に開かれた教育課程」で育む資質・能力−』ぎょうせい,2017年,pp.34-37,pp.212-214　査読無し

(2)佐藤真「総合で実現したいアクティブ・ラーニングの学習とは」『教室ツーウエイNEXT・第３号』学芸みらい社,2017年,pp.54-55　査読無し

(3)佐藤真「次期教育課程で学習評価はどう変わるか」『学校の評価・自己点検マニュアル』ぎょうせい,2016年,pp.3391-3397　査読無し

(4)佐藤真「探究的な見方・考え方を働かせ、自己の生き方を考える総合的な学習の時間」『新教育課程ライブラリ・Vol.12、見えてきた新学習指導要領』ぎょうせい,2016年,pp.64-65　査読無し

(5)佐藤真・浦郷淳「生活科におけるアクティブ・ラーニングの実践的検討」『教育学論究・第８号』関西学院大学教育学会,2016年,pp.65-71　査読無し

(6)佐藤真「これからの時代に求められる資質・能力を育む教育方法と教育評価」『第２３回・教育展望札幌セミナー要項』教育調査研究所,2016年,pp.26-33　査読無し

(7)佐藤真「これからの時代に求められる資質・能力」『第２７回・十勝こだま塾テキスト』十勝こだまの会,2016年,pp.1-4　査読無し

(8)佐藤真「新たな学力としての資質・能力とアクティブ・ラーニング」『これからの学校教

育を担う教師を目指す』日本学校教育学会,2016年,pp.20-28　査読無し

(9)佐藤真「『社会に開かれた教育課程』を視点にした学校経営」『教育展望臨時増刊・48号』教育調査研究所,2016年,pp.47-52　査読無し

(10)佐藤真「『言語活動』のさらなる充実としての『アクティブ・ラーニング』のために」『言語活動の充実を図る実践事例集』大阪市教育委員会,2016年,pp.143-144　査読無し

(11)佐藤真「資質・能力をみとる評価活動のあり方」『新教育課程ライブラリ・Vol.3、子どもの姿が見える評価の手法』ぎょうせい,2016年,pp.22-25　査読無し

(12)佐藤真・香田健治「総合的学習におけるモデレーション研修に関する研究」『教育学論究・第７号』関西学院大学教育学会,2015年,pp.53-61　査読無し

(13)佐藤真「『中間面談』を活かす授業観察の指導・評価のポイント」『教職研修・10月号』教育開発研究所,2015年,pp.94-95　査読無し

(14)佐藤真「『資質・能力』を育む授業づくりの要諦」『教育経営方略・26号』言語教育文化研究所,2015年,pp.6-7　査読無し

(15)佐藤真「アクティブ・ラーニングで授業はどう変わるか」『教育展望・９月号』教育調査研究所,2015年,pp.11-16　査読無し

(16)佐藤真「キー・コンピテンシー」『教育課題解説ハンドブック』ぎょうせい,2015年,pp.1166-1169 査読無し

6.研究組織

(1)研究代表者

佐藤 真(SATO,Shin)

関西学院大学・教育学部・教授

研究者番号:20324949

(2)研究者分担者

(3)連携研究者

(4)研究協力者

浦郷 淳(URAGO,Atushi)

佐賀県大学附属小学校・教諭

菅原 由香里(SUGAWARA,Yukari)

岩手県盛岡市立城南小学校・教諭